

教育白書に寄せられた保護者の声

以下は、保護者アンケートの、**項目5. 経済格差の教育への影響、教育に関する支出などについて、何か思うところがあればお書きください。**に寄せられた声です。表記等は、ほぼそのまま記載してありますが、一部プライバシーに関わる部分や文脈上明らかに間違っていると考えられる箇所は訂正しています。

[現状に不安・不満等]

- ・学習塾に行かせたいと思っても授業料が高額なので行かせられない。
- ・学校の授業だけでは、足りず家庭で与えなければならない為学校の出費も大変な上にそれにプラスの出費で大変です。一方給食費も払っていない人もいたりすると、不公平を感じます。
- ・生活費でいっぱいいっぱい学習塾にもいけないです。
- ・兄弟の多い場合どうしても下の子は経済的理由で自分の希望とする進路に進めなかったりする。
- ・ピアノ・そろばん代が家計の負担となり7月いっぱい止めさせざるを得なかった（7000円）。学級費や受講料などひとつひとつは、高額とまでは言わないが全てを合わせると大きな額になる。学校徴収金を優先させるとどうしても習い事などを削っていくしかない現状でやる気のある子供にやりたい事を我慢させなければならなかった。義務教育の中ですらそうやって教材購入などが難しくなっている気がする。家計の実状は外からでは、把握が難しく援助のひと言で解決をして欲しくない。
- ・学習塾などへも行かせたい。（通わせたい）とは思いますが、家計を考えると無理な部分もあり、通わせていないというのが現状です。
- ・雇用条件が悪い中、義務教育間についての負担はないが、学校外の習い事や塾など「負担」に思いながらも将来の為と思い、通わせている。《昔の先生方は放課後、よく教えてくださっていたのに》子供のやる気を教育にいくらかけたかで進路は決まっていく情勢である。やる気を育てるにも教育費が必要である。
- ・兄弟人数が多いと支出が重なり、進学に対して影響が大きい。
- ・私事で恐縮なのですが、生保を受けています。息子が高校進学時にケースワーカーの方に、「学校は定時制にして仕事をし、家計を助けて上げなさい」と言われ、息子には悲しい気持ちにさせてしまい申し訳ないと思いました。教育と言うのは「世界共通自由!!」だと思いますが、あの屈辱は今でも忘れられません。そういう息子も医者を目指して頑張っています。教育委員会の方には、あたたかいお言葉をいただきありがとうございました。
- ・問3で「学校教育費以外の教育に関する支出はない」と答えたのですが… 本当は使ってあげたいのですが、余裕がないのでしばらくがまんです。生まれた家庭の経済で教育の格差がおこってしまうと、裕福でない家庭に育った子は裕福なゾーンに行けなくなってしまうし、それが代々続いていくような社会になったら夢が持てないようになってしまう気がします。
- ・当家は母子家庭で、児童扶養手当を受けているが、これも少しのことで、減らされてしまい、この手当はゆっくり豊かに暮らすためのものではなく、ギリギリ暮らしなさい。と言った感がある。
- ・1人で子ども4人と母もみているので収入より支出が多くお金が足りない。子どもが小学校・中学校・高校・大学と成長するとともに支出が大きくなる。大変です。

・母子家庭のせいもあってか、低収入の為、給食費や学級費を支払うのが精一杯で子どもを塾等に通わせる事はもちろんできず、子どもの学力低下を心配しながら生活しています。義務教育以降の事が心配です。出来れば高校までは、学校へ通わせたいです。

・学校教育を同じように受けさせてもらわないと家では出来ません。経済的に大変な私達は、他の子どもと学力に差がついていくような気がしています。就学援助金も今年から切られ子ども3人しっかりとした教育が受けられるか、今後とても不安です。

・子どもの行きたい、学びたい、学校に行かせたいが私立だと学費等の負担が大きい。

・塾に行かせたいけど受講料が高いです。

・経済的理由で、塾、習い事等、させたくてもさせられない。学習の遅れなど学校の方でどうにかしてほしい。幼稚園、小、中、高、大学と教育費にこれだけ多くかかれば、子どもを産む女性も少なくなるのでは…。

・家計が苦しくなると子どもの教育にかかる部分も削ることになる。

・本校は良いが、他校では毎月大きな支出になっているところがあると聞く。そもそも学校を選べないのにそれだけかかるから払えと言われても正直困る。

・義務教育なのに制服など準備金が高いのでは…子どもの入学が重なると大変だと思います。

兄弟姉妹の多い家庭では生活費・医療費・学費等、一般家庭の何倍もかかります。大変困ってしまいます。

・学校教育費は子ども一人分だと負担には思わないが、姉妹がいると負担になってくるので、就学援助費が助かっています。

・本当に家計的にきついです。塾も行かずにすむなら行かない方がいいです。

[将来(進学)に対する不安等]

・今はまだ義務教育中ですが、高校入学に伴い教育費が今以上にかかるのは少し不安です。

・希望する進路に適する学校に出せたらと思うが、やはりお金の事を考えると進路も変える事も！！

・お金(収入)がなくて希望の学校へ行きたくても行けない。

・人間的に優しい子ほど親の負担を考えてしまう。今色々と学習資金等の借用は出来るみたいですが、返済の時本人たちが苦にならないような返済方法ができるといいのと思う。

・今現在、学校徴収金・学習塾などどうにかなっているが子どもの進学を考えると不安がある。子どもの進みたい道と経済との関係が悩みです。

・上の学校へ行かせてあげたいが払っていけない。

・これからさきの教育での支出が多くなると現在での経済では、どうしたらいいか考えてしまう。

・学力が高いのに希望する道に進めない。非常に親としても情けないが、親の資力ではどうすることもできない。

・私立高校への進学は考える。

・子どもが大きくなると経済的にも支出が大きいと思う。

・数年前より給料もほとんど変わらない状況は、子どもが成長していく実態に合わない。お金がかかるようになるのに…

・子どもを大学まで出すことへの不安は年々高まっている。2人の子どもをもっているが、1人でやめ

ておけばよかったか？ということまで考える。今から子どもをもつ人とも話をするが、「2人目はあきらめた」などの話が多い。少子化がますます進むのではないかという思いが強まる。

- ・まだ1年生なのでこれから学年が上がるにともない多少の不安はあります。(金銭的面で…) 子どもには普通に心配なく学校へ行ってもらいたいので、そこは親としての責任なので何とか仕事を頑張らねばと思っているところです。

- ・私立を希望しても学費が高いと国公立にせざるをえない。

- ・経済的余裕があれば習い事など子どもの願いをよりかなえてあげたり希望する進路(例えば地域に高等学校がなかったり、1校しかない公立高不合格の時、他に私立高校がないなど)を諦めたりする事もあり、とても気がかりです。

- ・子どもたちのチャンスが、どんどんしぼんでいくようで恐ろしい。

- ・大学まで行かせたいが国公立でさえ私立並みに引き上げられ収入が減り、支出が増えるため子供に対して申し訳ない。親が悪いわけではないと思うのだが…

- ・国からの援助が削られていく中で、負担が大きくなっていく。

- ・これから子どもが中学・高校・大学に進学して行くことに対して金銭的にやっていけるか不安を感じている。

- ・小・中学校については、教科書が無料なので助かる。しかし今後必要になると聞き制服代・本代等負担に思う。

- ・同じ義務教育でも小学校より中学校の集金額は、かなり増える気がします。また、高校ともなるとやはり子どもが行きたい高校に行かせたくともついつい経済的負担の少ない所に進学して欲しいというきもちも多分にあります。

- ・年々親の収入は減っているのに税金・年金など素払う金額は増える一方で子供にかかる必要経費(学級費・給食費)先に払ってから他を支払う事にしているが、毎月乗り切るのがやっとの状態ですので義務教育が終わった後の教育資金を考えると進路に大変影響してくると思います。

- ・母子家庭で収入も少なく子供のいきたい道に生かしてあげられないのを残念に思う。

- ・生活が苦しく、子どもの進路が思うように行かない。

- ・大企業・公務員等は安定した収入があるが、個人企業・中小企業はいつどうなるかわからないし、賃金もかなり格差があります。子どもは大きくなるにつれ、払うお金も大きくなり、我が家は大学はあきらめています。なんとかならないものかな…

[学校(教職員)に不満・要望等]

- ・中学の部活について…(スポーツ少年団からの影響なのか)中学に入学して、このスポーツあのスポーツをやりたいと楽しみにしている。しかし、お金がかかる部活ということで入部を断念する子どもがいることを現場の学校、教師は知っているのだろうか?中学の部活はそういったことがあってはいけないと思う。

- ・公教育で養える教育内容で、高校受験ができるようにしてほしい。

- ・経済格差で教育に影響がでる事がおかしいと思う。塾や家庭教師など学校で余分な教育(学力がつかない)ができず。進学に影響があることが疑問に思う。教職員も子どもが学習に興味をもてるような指導など工夫も必要ではないだろうかサラリーマン的でなく教育者としてプライドを持って仕事をして

欲しい。

- ・教育に関する費用(制服・学用品等)が高すぎる。
- ・自分の子どもは部活に入っていますが、とてもお金がかかり3年間苦痛に思いました。
- ・中学校の先生の教育(いかに子ども達に分かりやすく教えるか?)等塾の先生方は、子どもの勉強力について(進学率によって子どもが集まる。集まらなければ、お金も集まらない。塾の経営にもひびくわけだから分かりやすく教えている。塾に通いだしたら勉強するようになったし、学力も上がった、と思う。中学校の先生も公務員だからと甘えないですぐ月給につながるような仕組みにすべきだと思う。そうしたら塾にいかないですむのでは。子どもの一人一人の個人差はあると思うが、塾代は高いです。
- ・公教育の中で基礎学力が十分身につく状況になっていない。「塾に通わなければならない」現状は経済的なゆとりのみならず、時間に追われる子供たちの心のゆとりまで失わせているようで心配しています。
- ・現場、先生方の指導力の低下がみられ、学校だけにはまかせられない。
- ・公教育での学力の定着
- ・小学校の給食費・学級費については、適正だと思いますが、高校受験になるとほとんどの子どもが塾へ行って月3万~5万くらいの費用を払っているようですが、塾へ行かなくてもある程度の学校へ進学できるくらいのレベルに学校側はあげて欲しいと思います。
- ・確かに塾等に通いたくても経済的理由で通えない子どももいると思うが、それが子どもの学力に大きく影響しているのか?給食費の事も複数の負担であれば確かに大変とは思いますが、就学前(園児の時)に比べると負担は軽いと思う。聞いた話なのですが、中学校などでは色々なものを(運動着・文具など)一時しか使用しないのに必要だからと児童全員に購入させることがあると聞きました。親には後で請求書が届くそうです。いくら必要なものとはいえ、高価なものを簡単に購入しないで欲しいです。給食費では払わない人には、もう少し厳しく対応しても良いと思います。
- ・教材費が高すぎる。
- ・学校教育で受験へ対応できないと言われている。(中学校で)中学校で受験への対応をしていただければ、各家庭の塾通いが少なくなり、家計への負担が少なくなる。学校も受験への考え方を見直す必要があるのではないか。
- ・落ち着いて勉強に集中できていないような気がする。
- ・離島で生活しているのですが、修学旅行費が高い。(約6万~7万)です。

【行政・制度に対する不満・要望等】

- ・義務教育終了までは、もっと国からの援助があった方がいいのでは、各家庭からの負担を少しでも減らしてほしいです。
- ・教育施設や設備にもう少しお金をかけてもよいと思う。個人負担を減らし公がより良い社会を築くのは教育の力だと思う。
- ・ある程度の教育は受けさせたい。でもある程度というのが、どの程度なのか分からない。お金をかけてしか子どもを育てることが出来ない現代の風潮にも疑問がある。本当に「学びたいという意欲」のある子ども達に手を差し伸べることが出来る国であってほしいと願います。
- ・子どもにそれなりの能力があり向上心があるのに経済的無理があるとその時点で断念してしまわな

ればならない。させたいがそれが出来ない。何か教育費で援助があればとても助かります。

- ・どんな状況の家庭でもせめて義務教育の間は、お金ができるだけ要らない様、教材費など国庫で負担して欲しい。
- ・離島においては、高校以降もしくは高校～本土へと離れていきます。教育は最低高校までは平等であってほしいです。
- ・社会的にたくさん負担に思う人がいるのに、授業料減免申請書出しても!もっと深刻に調べてください。
- ・少子化の世の中もっと1人1人の子どもに対しての補助金など育てていきやすい環境を整えて欲しい。
- ・どの子にも平等に教育を与えていくという考えがあるのならば、もっと公教育にゆとりや人材・お金のつぎ込みが欲しい。
- ・本当に学びたいと思っている子どもには、もっと国からの補助を積極的に行って学びやすい環境をつくって欲しい。まだ足りていない。意欲もないのに経済的に余裕のあるところは、とりあえず学校に行っているという現状と比較してしまいます。
- ・経済格差ではないですが、教育の平等について複式学級はなくしてもらいたい授業時間が半分で十分に基本が分からないまま学年が上がっていくので。
- ・上級学校の教育費（授業料など）を減税の対象にして欲しい。
- ・先日子どもの大学進学をひかえ無利子の奨学金を申しこんだところ、公務員は過去にもらえたことがないと言われ、実際審査にもれてしまった。応募の条件は全て満たしているのに納得のいかない結果です。
- ・格差を埋める為の政策などがあるといいのだが。
- ・教育の機会均等が崩れていると思います。
- ・義務教育なので、出来れば教材（ドリルなど）も無料にして欲しいです。
- ・子どもが勉強したくてもお金のない子どもたちには何かよい制度があればと思う。
- ・小学生の間は感じないが…高校まで義務教育にしたらいいと思う。
- ・学童が充実していないので、作っていただきたい。家計が苦しくなるとお母さん方も仕事をし、共働きが増えます。しかし、世情いいニュースを聞かない現在、安心して働けないという問題も関係なくはないと思います。
- ・子どもの数は明らかに減少しているのですから、高校までは、義務教育として親の負担を少なく出来ないものかと思います。授業料の他にも出費する金額が多すぎると思います。年々授業料まで値上がりするのは時代に逆行していると思います。
- ・国家予算の教育に占める割合が少なく家庭への負担が大きくなっている。
- ・今の時代何をすることもお金がかかります。高校は授業料・昼食費・通学費等です。せめて、教育費だけでも援助があれば助かります。
- ・高校まで義務教育にして欲しい。
- ・子どもが意欲的になっているのに経済的な事で諦めさせなければならない時、親として申し分けなく思う。共働きして補えるほど賃金の良い企業は限られています。国は「少子化に歯止めを」と言いますが、教育費等にかかりかかるので生むのを考えるのは当たり前です。それでも3人4人産んだ家庭には援助して欲しいと思います。公務員が庶民の税金を考えられない無駄使いをしている分を教育費に回して！

- ・一定の年収未満の家庭については、教育費の補助を増やしてほしい。
- ・義務教育の場合、全面的に公費でやっていくべきである。
- ・私立校と公立高、または都市と地方において教育内容の差にとっても不安や不満を感じる。公教育でも充実した教育が受けられるようもっともっと現場の声を聞いて国・県・市町村が考えてほしい。
- ・高校までは義務教育にしてよいのでは。（高校受験にかかる費用もなくなる。）学校においては、徴収金については、その中味を精査して行かないといけない。本当に必要なかどうか？もっと費用を少なくする方法はないのか等。
- ・自分の進みたい学科が私立にあっても複数の子がいる家庭は公立のみを選択せざるを得ない。減免者も右肩上がりなので、銀行など授業料以外のプラスの融資など簡単に借り入れる様に、行政がとりくんで欲しい。
- ・全国どの地域に住んでいてもどんな家計・経済状況であろうと同じ教育を受けられるように国が保障すべき。その上で地方が独自に費用をかけたり、家庭が独自に教育へ支出すればいい。
- ・経済状況にかかわらず、ある程度同じ教育が受けられるよう国や地方自治体が支援していく方法がもっとあればと思う。
- ・現在経済的にどこの家庭も厳しくなっているのが現状ですが、私の家庭には病気の子供がおり、昨年までは全額免除されていたのが本年度より所得に応じて金額が出されるようになりました。色々手続きが大変ですが、本当に家計が大変ならそれなりの手続きも必要と思います。義務教育中（出来れば高校まで）は、その様に所得に応じて徴収をして頂ければ少しでも助かる方がいらっしやると思うのですが。
- ・安倍を首相にするべきでない。
- ・義務教育の基本は、経済格差があっても等しく学ぶことだと思います。現状の家計状況を把握して、貧しい人の視点に立っての教育制度であってほしい。これからの日本の将来を担う子どもたちに等しくチャンスを与えてやってください。
- ・教育とは、本来、国が国民に、大人が子どもに無償で行うべきというのが私の考えです。多少の教材費、遠足代、給食費等、必要最低限の支出はもちろん、当然だと思いますが…。塾等で教育費が異常にかさんでいる現状は、なげかわしい限りです。
- ・高校に在学しながらも就学援助が必要な生徒に対する公的支援の確保を更に訴えたい。
- ・我が家のように自営業をしていると、安定した収入が得られる訳もなく、転職を考えても年齢、現社会の経済状況では転職も難しい。できることであれば、義務教育だけでも給食費等保護者負担を一定額に決め（数千円程度）納入金額を減らして欲しい。給食費等支払えない家庭の子どもは色々な面で肩身の狭い思いをしていると思う。
- ・未来を担う子どもたちの教育の機会均等が崩れてきている。地方の子どもたちは、見はなされていると感じる。
- ・義務教育中では、国がある程度補助金を出すべきだ。または補助金をふやすべきだ。
- ・文部科学省の塾へ行って勉強してくれという様な姿勢は、経済的理由で、塾へ行くことのできない子どもたちを切りすてていると思う。低学力と言われるのは悲しいですね。

【教育に関する支出は親として当然との考え方】

- ・親が経済的に豊かで、しかも教育熱心である子どもは、習い事や学習塾などに行け、高い教育を受けている。一方経済的にあまり豊かではない子どもが、学力が低いとは言い切れない。精一杯こどものために費用を生み出している。親の熱心さがあれば、公立学校でも充分学力は、つけられると思う。
- ・本人のやる気次第で支出を考える。(やる気もないのに金は出さないと考える)
- ・教育費が負担になる？考えたこともありません。
- ・義務教育の環境下であろうとも子どもへの教育に関する支出は親にとっては当然と捉えています。子どもの将来を思うが故の事かもしれませんが、経済格差＝教育格差という構図だけは避けなければ、人格にまで影響を及ぼしかねません。大切な時期（成長期）だからこそ取り組むべき課題であると考えます。
- ・ピアノや水泳など子どもがやりたいと思うことはさせています。家計に影響がありますが、どうにかやりくりして毎日生活している状態です。子どもの事は特別だと思います。
- ・義務教育は親である以上責任を果たすべきであり、高校以上は子どもの判断でもあり現代は学習を求めようとするならば色々な手段があるので金銭的な問題で進学できないというのは納得できない。
- ・我が家では家計の中で一番に考えているのは子供にかかる支出で、次に税金関係、生活費の順です。義務教育での現在の教育費は、一般家庭で無理なく納められる金額ではないかと思っていますが未納者・就学援助を受けている家庭の多いのにびっくりです。
- ・確かに支出は大きいと思いますが、こういうものなのかなーと思っています。そのためにも親が頑張らないといけないのかなとは思っています。
- ・子どもの事であれば、出来るだけの事はしたいです。
- ・子どもの教育費だけ出なくて部活などへの出費も重なります。子どものためと思い出すものはしっかり出した方がいいと思います。
- ・我が家も決して豊かな生活をしているとは言えませんが、子の親として全ての責任があると考えます。必要な支出であれば、苦しい生活でも子どものために頑張れます。
- ・地域によって、塾やスポーツ教室の月謝が違うので何とも言えませんが、奄美は教育に熱心なのででしょうか、安く感じます。全国でされている「子どもチャレンジ」や県内でされている「奄美校」と言われている所は共通の受講料ですが…。教育費は子どもの数によっても家計に占める割合は違うと思いますので、この点でも何とも言えませんが。我が家では学校徴収金を優先に考えるのが親として当然の義務と思っています。
- ・資格を得るためには、それなりの教育費は必要だと思う。
- ・親としては、どんなに経済的に苦労しても子どもには十分な教育を受けさせたいと思う。

[教育費を払おうとしない保護者などへの不満]

- ・給食費など家計の事情でどうしても支払えない方もあると思いますが、そうではないのに滞納される家庭は何とかして頂きたいと思います。学校給食は安いし栄養も考えられているので大変有難いと思っています。その一方で教育費を優先的に考えられない親もふえています。授業料減免申請の際明らかに払わなくてすむのならラッキーという軽い発言をしたり不払いが続いているのに家族全員で携帯電話をもっていたりなど教育費を第一に考えていません。
- ・高校や大学は経済的な理由があると思うが、小学校は金額が高くないので、給食費や学級費の支払い

をしないのは親の責任だと思います。

・教育に関する支出で学校徴収金の納金をされない家庭の分は納金している人が補っている事になるのですか？それだと、納得いかないところもある気がします。

・教育に関する支出…学校徴収金など保護者負担を軽くしようと補助金を出しても、まずその親がそのお金でパチンコにいったり、そのお金を生活費に当てたりしている実態があるので、使う側をもっと管理すべきです。

・未納している分をきちんと払おうという気持ちがない保護者も中にはいると思う。どうしても払えないという事情がある人が増えているなら、負担を少しでも軽くする対策に取り組むべきだと思う。

・学校を運営していく上で徴収金の支払いは義務。協力して欲しい。

・多少なりとも経済格差はあると思う。行きたい学校へは行けない（金銭的）給食費等きちっと支払っている方（私も本当はきつい）が損をする形は不快に思う。本当に困っている人には何らかの救済処置はあっていい。払える人がわざと支払いをしない場合は厳しく対処して、本当に困っている人を救ってください。

【その他】

・学校徴収金より、それ以前の保育園・幼稚園の教育費が大きい。入学と同時にそれまで支払っていた分の差額を学校以外の習い事等の月謝にあてるようにしている。

・離島の為、離島のハンデはあると思う。

・全然内容のわからない教科書になっていると思います。見かえす読みかえすが出来ないものが多々あります。

・資格を得るためには、必要不可欠だと思う。

・村山市では、給食費滞納者が「0」人である。「手作り弁当」「給食」で選択できたよ。プリペードカード制で前払い。残メモリは返金できるとの事。学校給食の見直しも必要では？

・ゆとり教育が本当に必要なのか？

【持論・要望・一般的な意見・提言等】

・支出の面ではひとつひとつの金額は小さくなくても、回数が多い。教育への影響は何とも言いがたいが、支払いができないところが増えれば公平性は失われる可能性もある。

・家庭の生活水準が高いかそうでないかによって、子どもの学力にどうしても差がでてきているように思います。塾に行くことがあたりまえになっている中学生ですが、家庭の事情で行けない子どもたちに、学校教育は大切ではないでしょうか。

・義務教育でさえも教育費がかかると思う。

・経済格差が一層すすみ、生活水準により公立・私立への進学選択が確実に変わってくるだろう。

・経済的に余裕のある家庭は子どもにたくさんのお金をかけられるがそればかりが子どもの為になるとは思わない。子どものやる気があればそれなりの努力を自分ですると思います。親だけの満足や安心を得るための方が大きいと思う。学校で頑張っている子どもたちに学力をつけて欲しいです。

・生活にゆとりがある家庭は高学歴となるのですが、そういう家庭の子どもが医者・弁護士・・・となったとき、いろいろな人の気持ちが分かるのか疑問です。

- ・土曜日の授業を再開することにより、学力格差が多少なりとも少なくなるのでは…。
- ・生活環境の悪化（衛生面・住環境を含む）は、子どもたちの精神状態に少なからず影響を及ぼすと思われる。低所得者の子どもは、学習をする気分にさえなれない子どもが見受けられる。
- ・二極化が進んでいる。平等な教育は受けられないと感じている。5日制が弊害になってきていると思う。
- ・今の成績主義が現在の子供達に悪い影響を及ぼしていると思う。それにより、格差が出ているのではないか。義務教育の必要性（全子ども達に）をもっと前面に出したらなくなると思うのだが。
- ・市町村により、教育費に差があるのでは？
- ・昔と違い、地域社会と家庭との関係が希薄になりがちな現代では、経済格差により、親が必死に働くと子どもはどうしても放たらかし（見届け不足）になる。たとえば平日の放課後は、本当ならば近所で遊んで欲しいが、不審者問題などもあり、安心して遊ばせることができない。故にスポーツ少年団や学童保育などに預けざるを得ず、その支出が大きい負担である。
- ・あまりにも高校受験、大学受験に重点がおかれ、それが学習塾に通わざるを得なくなり、それに伴う受講料、交通費、家庭の負担と大変です。卒業はやさしい(?)と思われるこの状態が改善されないかぎり、ますます学校より塾といった言葉が消えないのでは。
- ・親、大人たちの価値観の違いも出てきているとも言えるが、早期からの教育ということで教育費にお金をつぎ込んでいる人も確かである。また、競争もなんだか激しく、中学校くらいになると塾に行っている、行かせている人がほとんど。しかし、子どもはそうでない。(塾に行かずにさぼっている人、疲れて頭に入っていない人)感性の育ち、人とのかかわり、大人からの愛情の受け止め方、育ちの違い、しっかり向き合えず、お金を溝に捨てているようなところもあるのでは。国や個人のお金、いずれも必要な所にお金を使おう。
- ・義務教育としての学校教育費の支出が負担に思える状況は無くしてほしいが、それ以外の支出に関する事で、学力の格差等への影響は、子どもの努力が大きいと思うので考えたことがない。
- ・県内でも地方によっては、格差と感ぜない所もあると思うが、公立高校の競争倍率が高い鹿児島市などは、小学校から学習塾に通う経済的に豊かな家庭が、やはり学力も高い傾向にあるように感じる。
- ・私高公低が更に進むと思う。
- ・街になる程、塾に頼る人が多く、学校への不信感をつのらせている。
- ・今の子どもたちの学力は「できる子とできない子」に別れており、普通の学力の子供がまれにしかいないと思います。
- ・経済的に余裕のあるところは習い事、学習塾などへどんどん行かせ、そうでないところは、余裕はないし、また共働きでしかも子どもが帰宅後も親は家にいず、自宅で親に勉強を見てもらうことも出来ないなど格差があり、更に広がる一方だと思います。(一方、土曜日にボランティアの形で補習などを進める動きも出ているようですが、それもどうなのでしょう？)
- ・「本人の努力が報われるよう」平等なチャンスがどの子どもにもある事があたりまえのことだと思いつながり子どもと接しています。そんな世の中や将来を保障してあげたいですね。
- ・平等な教育を受けられるよう教育に関する支出は安くおさえて欲しい。
- ・親の子どもの事を思う気持ちがどうかによって違ってくると思う。他の県で子どもが餓死した事件では犬にはドッグフードを食べさせているお金があるのに我が子には食べさせないと言う事が信じられ

ません。子どもを思う気持ちが大切に親は食べさせなくても子に食べさせず気持ちが親にないのかもしれませんがね。

- ・社会の崩壊につながるのではないのでしょうか。
- ・義務教育+学習塾=学生生活が当たり前の様になっていますが、塾はあくまでも補うものとしての位置づけであって欲しい。また、そういう社会に戻す！？為に意識改革を行っていくべきではないかと思います。
- ・みんなが平等に教育されていくように望みます。
- ・いろいろな子を見るにつけ「お金」の為に学習がうまくいかない例はたくさんあると感じる。反面「お金」のありすぎるところでは、あれやこれやと習い事に忙しく、子供はパンク寸前。親だけが競争心丸出しなもの気になる。果ては人を見下すような感じになってしまっそう。
- ・経済が教育に影響しているのは各家庭でもそうだが、地域間においても同様だと感じる。学校によって設備などに大きな違いがある。等、格差があると思う。
- ・お金がなければ学習したくても、学校（私立高校・大学など）に進めないなどの問題はあと思う。
- ・収入が多い家庭は、教育費に多くかけられるが、少ない家庭は生活をするだけで精一杯で教育費どころではないと思います。従って格差は自然とつくと思います。
- ・経済格差によって教育に格差が生じていると思う。教育の格差がさらに大きくなり両極化していくのではないかと思う。
- ・所得が低く家計が苦しくなると子どもの生活に影響を及ぼすと思うし、気持ちにも色々な変化が現れると思います。特に劣等感などを持ってしまうと健やかな成長を妨げることになると思います。所得が低い家庭については、減免が必要だと思います。
- ・私立へ進学等の進路を選べるのは経済的に余裕のある家庭に限り、また学力的に上を目指せばそういう方向へかたよる。公立の普通の学校で、誰でも意欲のあるものが同じく学べる世の中が望ましい。塾なども高学費ですよ。（しかし、これは家庭や公立の学校でも子どもの意識が高ければサポート応援できることかもしれません）
- ・子どものやる気が一番大切だが、お金がある、ない、共働きか、共働きでないか、仕事に追われて子どもにかまう時間がもてないなど余裕のある家とそうでない家では習い事に通わす事を考えても、格差は大いにあると思う。
- ・学びたい者が全て学べる社会であってほしい。経済力のない家庭は、子どもが教育を受ける為の環境を整えてあげる事が出来ない。子どもに努力させることが難しいと思います。その為子どもが経済的に自立する力をつけてあげることが難しく、その為次の世代も…と、なりがちです。その為豊かな者とそうでない者・知識のある者・そうでない者の差が大きくなります。ぜひ学びたい者が全て学べる社会を！アメリカのある街が大学に行く学費を全額補助している。そしてその町に活気が戻ったという例もあります。
- ・現在はよりよい学校へ進学しなければ、良い仕事に就けないという世の中になってきているので学校教育だけでは、子どもが満足のいく将来が望めないような気がする。昔は、塾など行かなくても県立高校へは進学できる時代だったが、現在は学校教育だけでは、県立へも進学できない状態のようです。このような時代なので、学費がかさみ家計に占める割合は教育費がかなり高い。
- ・経済格差が子どもたちの学力低下を生み出しているとは考えられない。教育的な本やパソコン等学校

や図書館で学べるべき事は全てであるといっている。参考書や辞書も然りである。どの時代もその子の学ぶ気持ちがあれば時間を有効利用し学校を最大限に活用することで同じ教育を受けられると思う。親世代は学習塾もほとんどなかった訳だが、数少なく通っていく事のできた人たちよりも少なくとも成績もよかったし文武両道をやりとおせたのも通えなかった人たちがはるかに多かった。

- ・教育費の使い道をもっと考慮する必要がある。
- ・学校教育以外で学力をつけるのは、親の経済力によって子ども達の能力のランクづけになり不平等な社会である。親の経済力に関係なく誰もが等しく学力を身につけるチャンスを与える社会でありたい。
- ・経済格差は子どもの教育を受ける自由・権利さえも奪い、尚かつ将来的な職種まで限定してきている。
- ・机上での勉強も大切だと思いますが、人間性の形成が大切だと思います。思いやり、友情、忘れがちの様です。
- ・経済的理由により、高校に進学できない子がいると聞く。教育は平等に受けたい者に与えられるべきだと思う。
- ・低学力＝生活苦 この2つが直結するようで暗い気持ちになる。お金のあるところは、英語教室・公文と十分に子どもの可能性を伸ばしてあげられる。一方で生活苦のため土・日も関係なく働かなければならない親もいる。その間食事は子どもらが、自分で何か作って食べているところもある。低学力＝低賃金が代々繰り返されるようだ。
- ・金額的なものだけでなく教育への関心度も二極化していると思う。
- ・一般的に難関といわれる大学の入学者の家庭を調査したら母親が専業主婦の家庭が多かったらしい。経済的余裕があり、母親が子どもの教育のことに十分に時間をそそげるとも言えるかもしれない。家計に負担があるのは、事実だが、子どもの為にとという理由で教育費を優先させたいと考える親は多いと思う。教育を受けさせて、たくさんの生きる力や糧を身につけて欲しいから。
- ・不安定な職についている人や子どもの数が多い家庭はその分支出も多くなるので大変だと思う。
- ・学歴社会構造が変わらない限り過熱する教育に関する考え方は、増々エスカレートしていくと思う。その路線に乗せる為に教育に関する支出は抑制できない。その為に一番犠牲になっているのは子どもたちだと思う。
- ・少子化が問題になっていますが。子どもが1人増えることで経済的にもとても大変になってきます。私たちが義務教育を受けている頃に比べると学校徴収金の額がとても増えています。その上教科書の有料化になると、義務教育すら受けたくても受けられない家庭が増えると思います。
- ・都道府県でも市街地や田舎でも差が大きく中でも努力している子も多いのは事実だが教育内容がやさしくなりすぎ塾や家庭教師だよりの傾向もみられる。また、高校選択・通学方法などにおいても経済的にゆとりのある子は行ける場所を選びやすい。公教育の場でありながらそれ以上のものは、金が必要であるのが現状で教育に経済格差が大きく見られるようになっている。
- ・お金がないと、いい教育は受けられない。
- ・金と学力が比例しているような感じがする。
- ・最近では学校教育以外の教育費が多いように思う。
- ・離島に来てから得に経済格差を感じる。私たち教育に携わるものは、それに配慮しながらどの子にも同じように活動していかなければならないと思う。
- ・私立へ進学する子が増え学力の格差が増大する。カリキュラムが公立と私立では違う。かといって私

立へ出そうとは思わない。色々な人がいる学校で社会性を養わせたい。

・経済格差によって子どもへの教育環境は大分違っている。都会は特にあるし、提案の小泉さんは学校に差をつけようと始めてきている。高学歴は裕福な家庭のみになって貧乏な家庭は難しくなっている現状だと思う。

・経済的な面で進路には影響があると思う。まず大学に行けない、希望する職業に就けない。給料が安い。病気になっても病院に行けない、等悪循環してしまう。

・奄美本島から鹿児島などへの子どもの進学は、親への金の問題など色々大変な面がありますので、地元の高校へ100%に近い数字で入学できたらありがたいと思います。その分子どもたちには勉強の面でがんばってもらわないといけませんけれどね!!

・奄美では、離島ということで大学等の教育費が大きな支出になっていると思います。

・今、現在、自分たちの周りで経済格差の教育への影響を感じているわけではありませんが、大都市での格差は激しさを増すばかりのようです。私立学校や塾は別として、義務教育は絶対に保障されるべき権利です。

・子どもの成長と共に、このような格差を実感するものと思います。経済的な理由で教育が行き届かなくなることは、子どもたちの未来への不安、更なる少子化、社会の各方面での影響も心配です。せめて、子どもたちが安心して教育が受けられる社会であってほしいと思います。

・国全体が、勝ち組・負け組に二分される雰囲気があり、個がそれぞれ悩む時代になってしまっている。子どもがたくさんいる家族はすばらしいと思うが、現実的に経済面の負担が大きく、親は朝から晩まで仕事漬けになり様々な問題を抱えている。支援が必要と感じる。

・経済的にゆとりがある家庭の子どもだけが、教育内容も充実してくることはおそろしいことである。子ども間、あるいは大人社会に思いやりの気持ちまでも消えかかっている。今の社会状況を見ても、将来が危惧される。子どもも大人も、お互いに信頼関係までも薄れているようである。

・家の経済状況で子どもの学力格差等の問題が起こることはのぞましくないと思う。やはり何らかの具体的な対策を早急に立ててほしい。

・低所得の家庭では大学へ行かすことすらできません。経済格差、なんとかできないですかね!

・残念ながら今の時代は、お金がかからないと十分な教育が受けられないのかな?と思います。

・経済格差により教育、進路を考えなければならない。国庫負担制度が縮減されれば学校に行けない子どもも増え今よりも恐ろしい社会になると思います。

・子育てにある程度のお金はかかると思うが、物価が高いためか修学旅行などびっくりするほどお金がかかる。こんな事では少子化に歯止めはかけられない。

・弱者が切り捨てられるような社会の動きには納得いかない。

・これからの子ども達の為に(未来の為に)教育は、十分に受けさせてほしい!

・子どもの人数により、一家庭の教育に関する支出は違うと思う。

・「地域間教育格差」は、絶対反対・平等に!!

・経済格差が「希望格差」につながっているように思います。

・これから先の世の中で高学歴・高収入までいなくても、収入を得られない家庭の子どもが十分な学力をつけられない世の中になる空気を感じます。

・週休二日制に伴い出費が増えた。(塾など)「学校では理解できないことは塾で」と塾にいかなくては

いけなくなる。

- ・大いに影響があると思います。能力も本人の希望もあるのに進学できない子どもがたくさんいます。
- ・いい高校・大学へ行くには、まず先だつものは学費です。でも子どもには資格をとらせてやりたいというのが現実です。
- ・私、個人的に白い紙がない時は土や砂に字を書いたりしました。あまりにも物が多すぎると思います。自然を取り戻すためにも、使える物は使って、ない物は補充してはと思います。うまく言葉に表せませんが…。
- ・学力社会が問題である。学力と塾などの費用が比例している為、経済的格差が学力格差になっている。現状の学校レベルでの学力では世界レベルで見ると低いほうである。学力だけでは今後の企業では役に立たないことも問題である。(心の強さが必要)
- ・何とかやりくりしながら、子ども2人の教育費を払っているが今の自分より収入の少ない家庭では学習塾や習い事など通わせたくてもできないのではないだろうか？
- ・経済格差があっても、子ども達が平等に教育が受けられるような制度を物心両面から、国や地方自治体で援助していただきたいと切に願っています。大きな夢を持ち続けながら、小・中・高と進んでいてほしいと。